外国から来た毒グモ

セアカゴケグモ

セアカゴケグモとはどんなクモ？

昨年（平成７年）の１１月、日本じゅうが毒グモの出現に驚きました。

大阪府高石市内で、日本にはいないと思われていた毒グモが発見されたのです。それはセアカゴケグモという名のクモで、体全体が黒く腹部中央に赤色の太い帯の様な模様があります。ゴケグモというのは、交尾の後メスがオスを食べてしまい、メスしか残らないので”後家（ごけ）”グモと名付けられたのだそうです。

インド、フィリピン、ニューギニア、オーストラリア、ニュージーランドなど熱帯・亜熱帯に広く分布し、日本でも約４０年前、沖縄県の石垣島と西表島で記録されたことがありますが、現在生息は確認されていません。

メスの体の大きさ（足は含まず）は、８～１０㎜、オスは４～５㎜で、メスの体は全身ほとんど真っ黒、球形の腹部の背中側中央に赤色の帯状の紋が目立ちます。オスの腹部は細長く、黒もしくは濃い褐色で、白色の紋が見られます。

巣は不規則なアミ状で、石の間やくぼみ、側溝、建物の隅などに作られます。

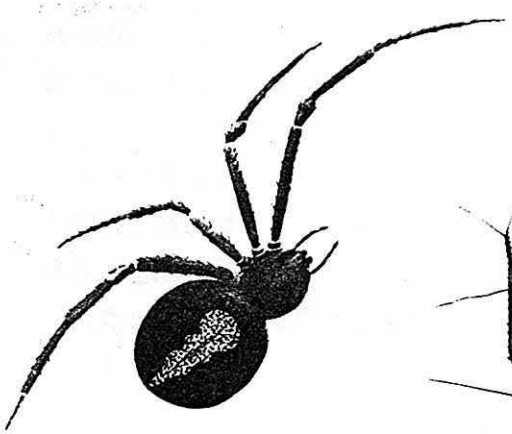

図１　セアカゴケグモのメス
（右側の足は省いてあります）

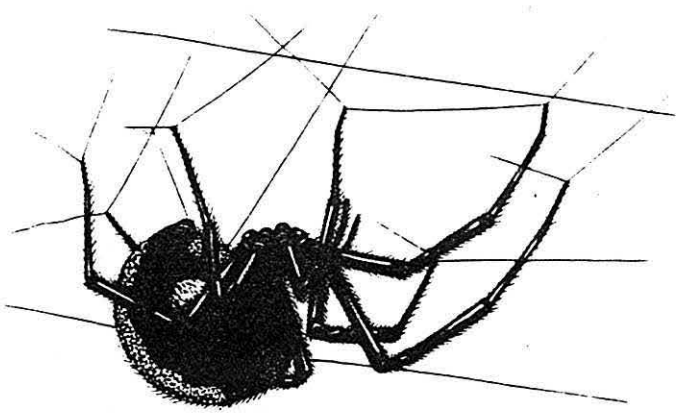

図２　セアカゴケグモの巣網

毒性は？

かまれて危険なのはメスだけで、オスには毒は無いか、あってもごく弱く危険は無いようです。セアカゴケグモの毒は、神経系をおかす毒で、症状は人により様々ですが、一般に、かまれると針で刺されたような痛みがあり、痛みはゆっくりと全身に広がり強くなり、汗がでる、血圧があがる、しびれる、呼吸困難などの症状があり、多くの場合は数日から数カ月で回復しますが、時には数日で死に至ることがあるとのことです。

オーストラリアなどでは、かまれた被害の報告も多く、死亡率は数％から10％程度と報告されていますが、治療用の血清が準備されてからは死者は出ていません。日本では大阪府で血清を取り寄せています。ただし、アナフィラキシーショック（短時間で危険におちいる過敏症）を起こす可能性もありますので、やはり注意は必要です。

どこにいる？

現在、セアカゴケグモが確認されているのは、大阪府堺市以南の海岸沿いの市町村、三重県四日市市、沖縄県那覇市、同宮古島です。これらの場所は海外貿易の盛んな港の周辺であり、セアカゴケグモの生息地から船の積み荷に紛れ込んで入ってきたものと考えられています。

富山県では、今のところ見つかってはいませんし、富山のような寒いところでは冬を越せないだろうと考えられています。しかし、最近は暖房が行き届いていますし、屋外でも、清涼飲料水の自動販売機のように年中放熱している機器も多数あり必ずしも安心はできないと思います。

対策は？

かまれると危険なクモですが、攻撃性は無いので、素手で触らなければ危険はありません。まだ富山では発見されてはいませんが、絶対に入ってこないとは言い切れません。セアカゴケグモは、小さいですが特徴のはっきりしたクモなので、一目で他のクモと区別できると思います。日頃から近辺のクモに注意しておきましょう。それらしいクモがいたなら、すぐに保健所に連絡しましょう。触らなければ危険はないとはいえ、人間の活動によって外国から侵入したクモであり、死亡例もありますから、富山でも発見されたなら、早く退治しておく必要があるでしょう。

（根来　尚）

富山市科学文化センター
〒939富山市西中野町1-8-31　TEL(0764)91-2123

平成８年１月１日　発行